

### 1. 授業の概要

本科目は、幼稚園教育要領における領域「言葉」の指導法を取り扱う科目である。幼稚園1種免必修・2種免選択の科目であり、幼児教育及び保育士コースの必修科目でもある。

講義の前半では、各年齢クラスにおける言葉の発達の特徴や絵本を使った保育についてグループごとで実践事例を基に議論した。授業の後半では、「幼児期の自己主張と保育者による支援」をテーマとして、附属幼稚園にて実際に子どもと保育者の支援の様子を観察した。観察した内容を書き起こし、内容を整理・分類し、概念マップとして、発表したうえで、レポートとしてまとめた。

### 2. 受講生

受講生は33人であり、内訳は2回生31人、4回生2人であった。また、幼年教育サブコース7人、小学校サブコース21人、特別支援教育コース5人であった。観察時には、5～6名の学生を1クラスに配置した。

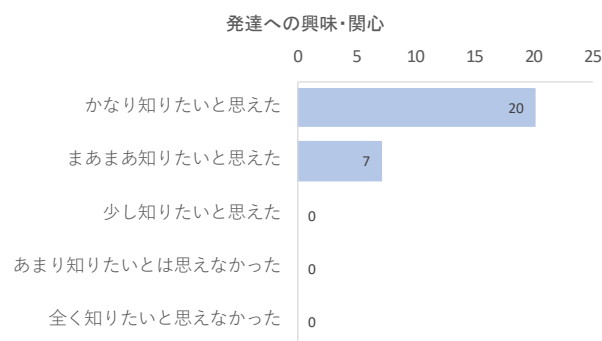
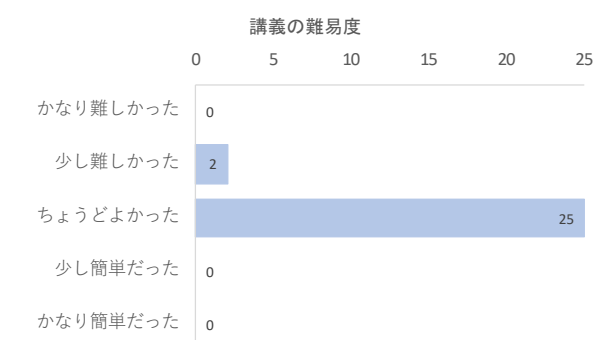
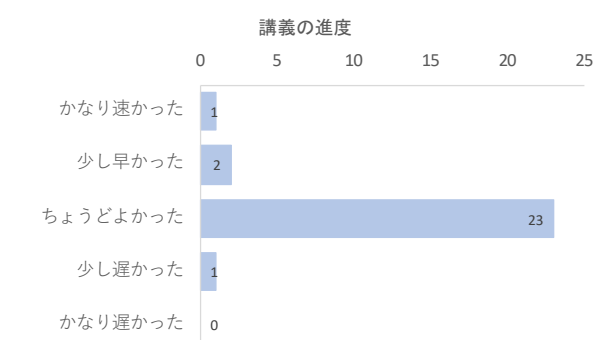
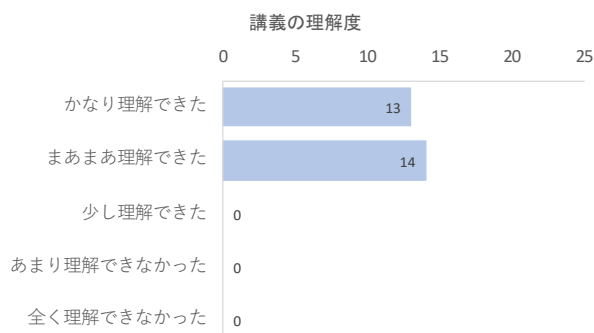
### 3. 授業の成果

受講生は、各学年のクラスごとに子どもの様子を観察するグループと保育者の支援を観察するグループに分かれて観察を実施した。

事例の分類においては、基準を設けて事例を分類していくグループと事例の内容からボトムアップ的にカテゴリを作っていくグループに大きく別れた。書き起こした事例全体を俯瞰的に捉え、どのような基準を設けることができるのかを考えているグループほど最終的な説明が、より整合的なものとなっていた。

### 4. 授業評価

講義の理解度（授業の内容は理解できたか？）、進度（授業の進度は適切だったか？）、難易度（授業のレベルは適切だったか？）、発達への興味・関心（講義を通してさらに乳幼児の発達について知りたいと思えたか？）について回答を求めた。27名の受講生から回答が得られた。



理解度、進度、難易度については、昨年より数値が改善しており、概ね適切であったと思われる。発達への興味・関心も高まっていることから、3年時の講義を通して、さらに乳幼児期の発達について学生とともに考えていきたい。